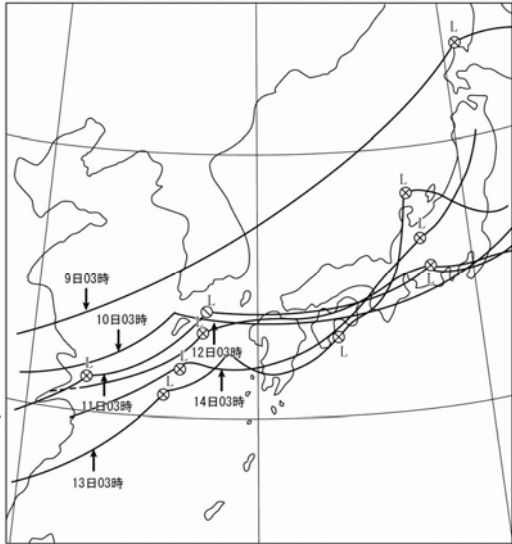
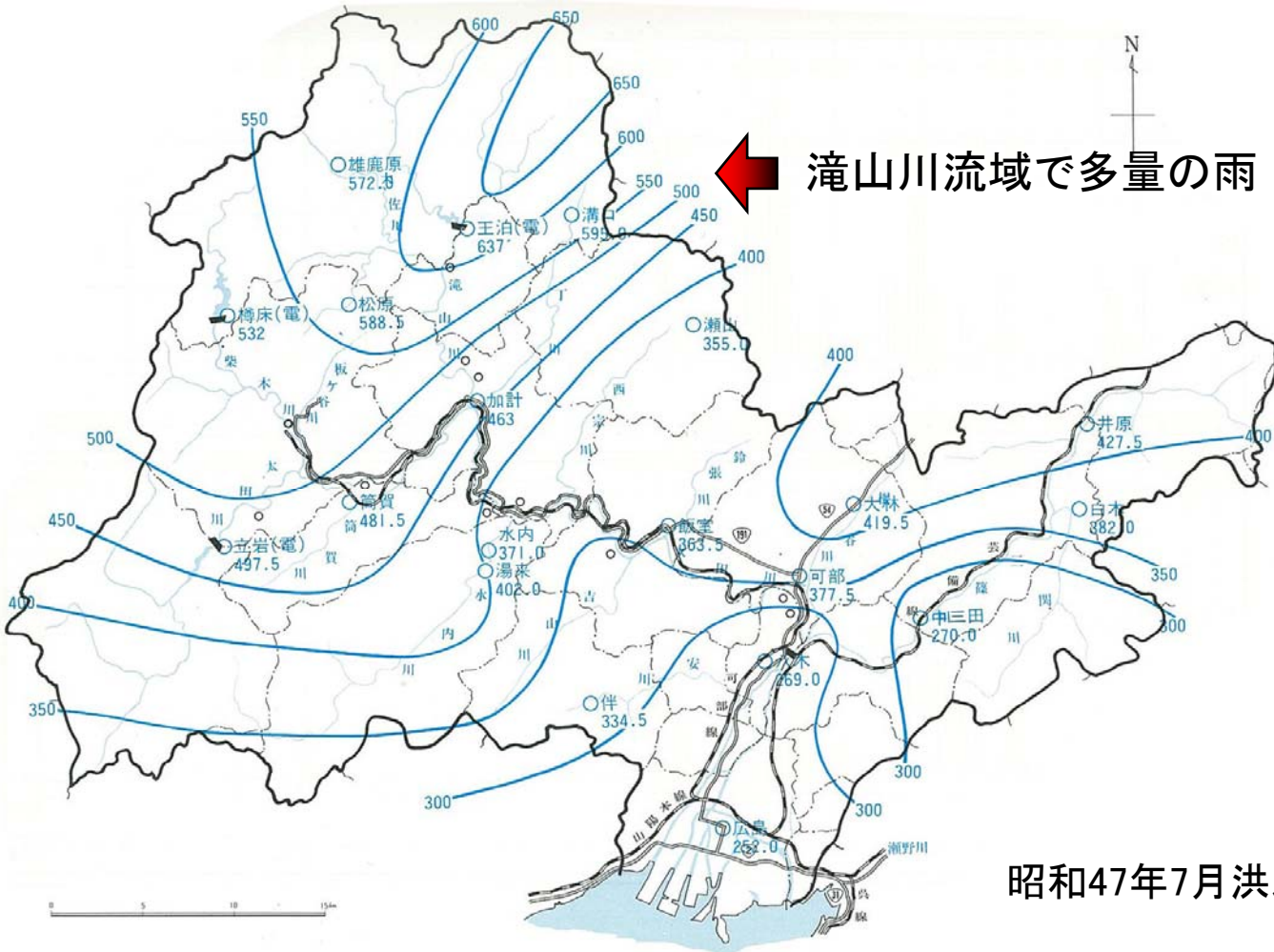


3.1 昭和47年7月洪水の概要(観測史上第2位)

- 昭和47年7月豪雨は、梅雨前線の活発な活動によって発生したものであり、太田川上流域でも大きな被害を生じた
- 上流域では総雨量は600mmに達した箇所もあった



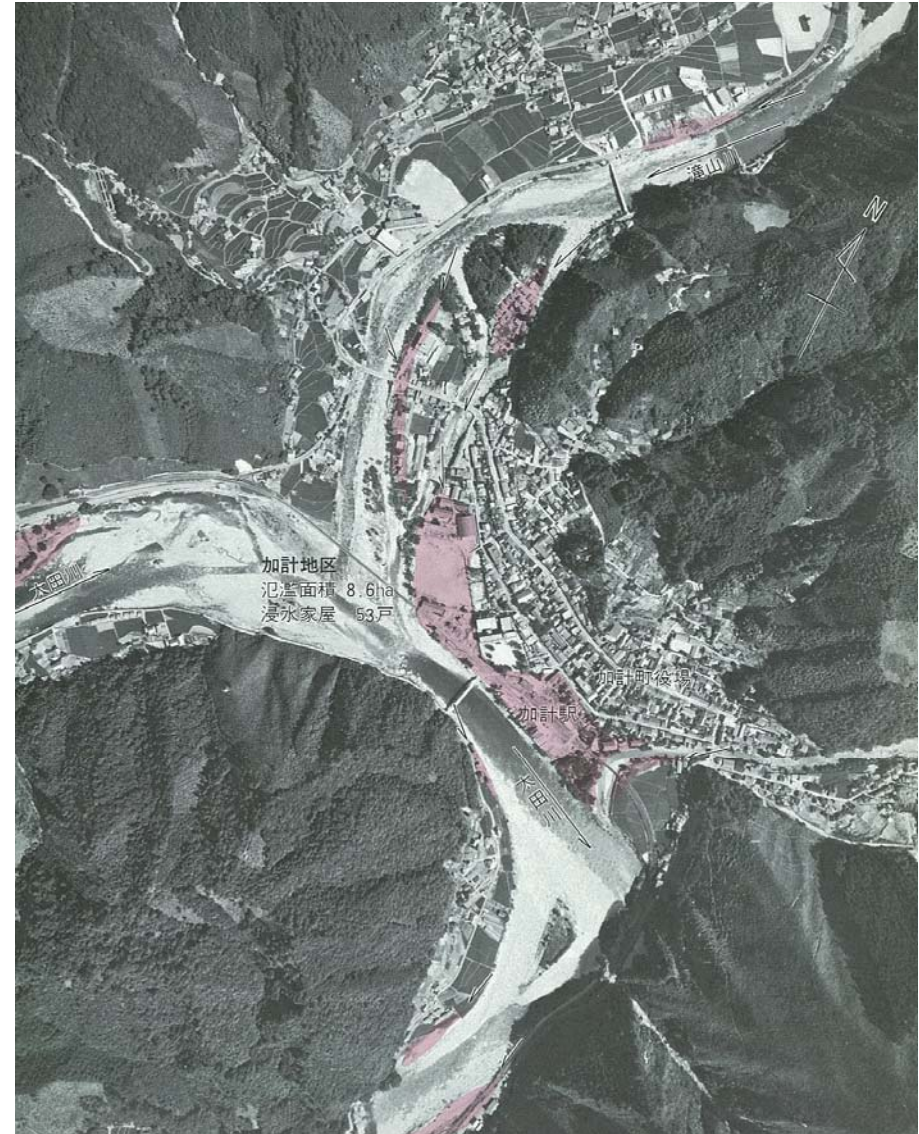
梅雨前線の移動状況

昭和47年7月洪水における総雨量分布図

3.2 昭和47年7月洪水による浸水区域(1)



戸河内地区の浸水区域



加計地区の浸水区域

3.3 昭和47年7月洪水による浸水区域(2)



戸河内地区 柴木川国道191号野為橋上流



戸河内地区 明神橋上流

3.4 昭和47年7月洪水による浸水区域(3)



加計高校グラウンド



加計小学校横



加計町中の渡

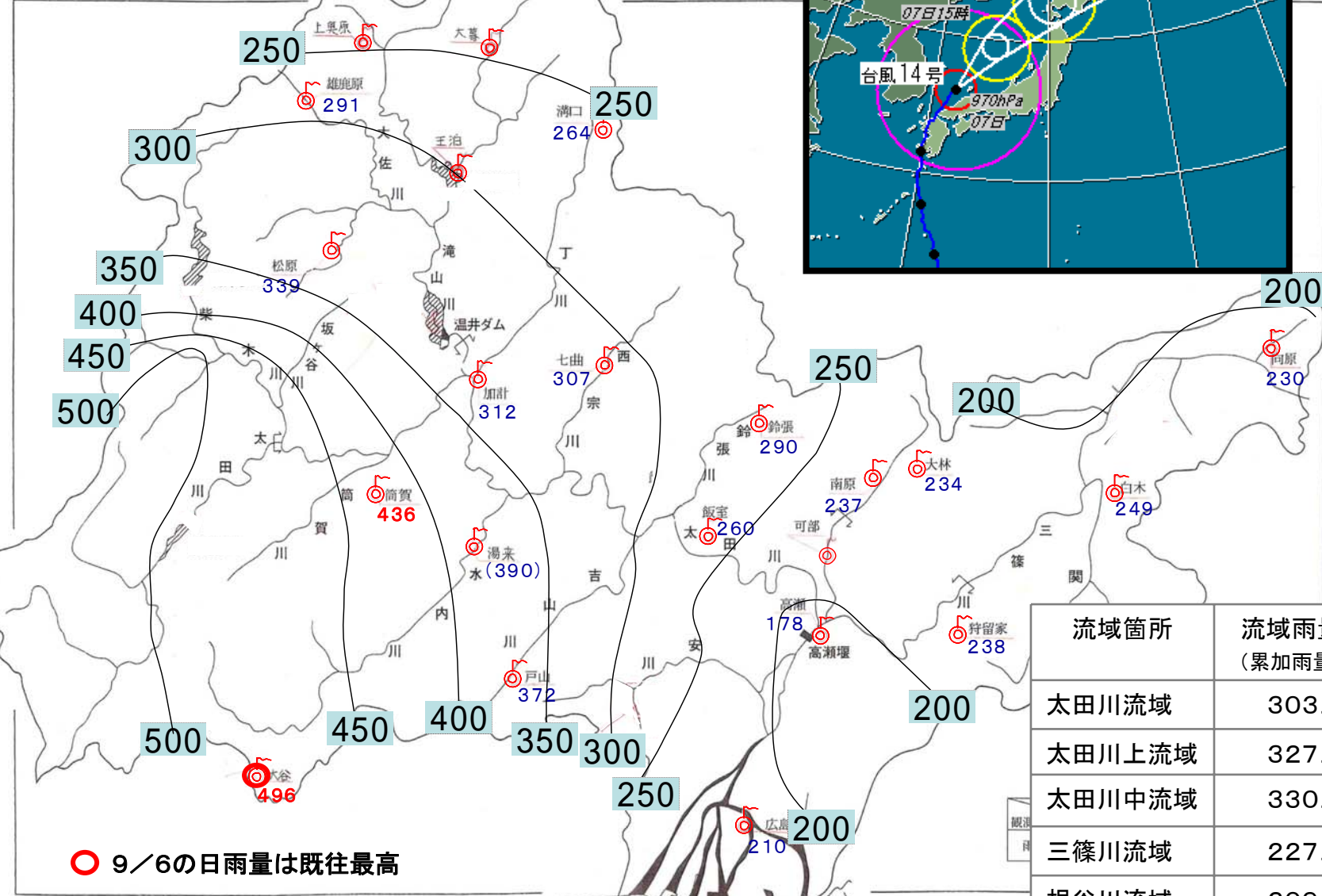
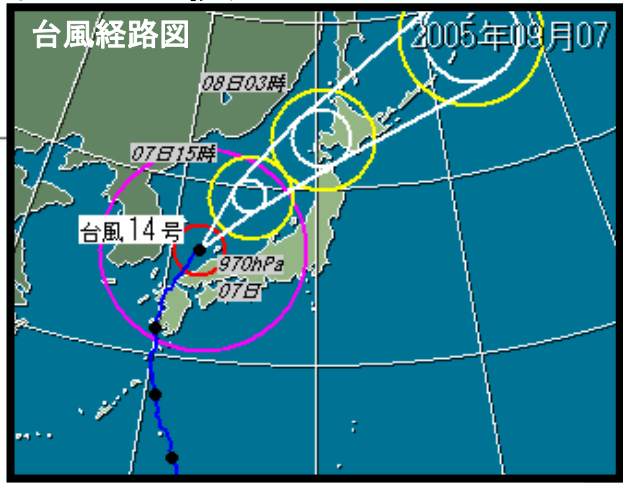


飯室

3.5 平成17年9月洪水の概要(観測史上最大)

■平成17年9月豪雨は台風性によるものであり、短時間の集中豪雨により大きな被害を生じた

(平成17年9月4日～7日までの雨量)



流域箇所	流域雨量 (累加雨量)
太田川流域	303.4
太田川上流域	327.9
太田川中流域	330.2
三篠川流域	227.3
根谷川流域	209.6

雨量コンタは、雨量レーダーによる分析を参考とし、テレメータ数値を基に作成しています。

広島湾

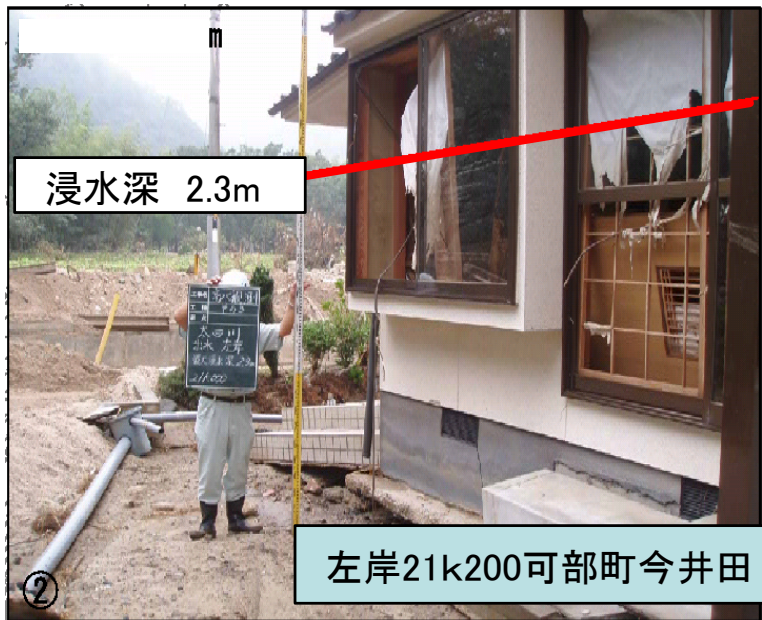
3.6 平成17年9月洪水浸水被害状況(1)

3.主な洪水



河川管理施設の被害は35箇所18億円

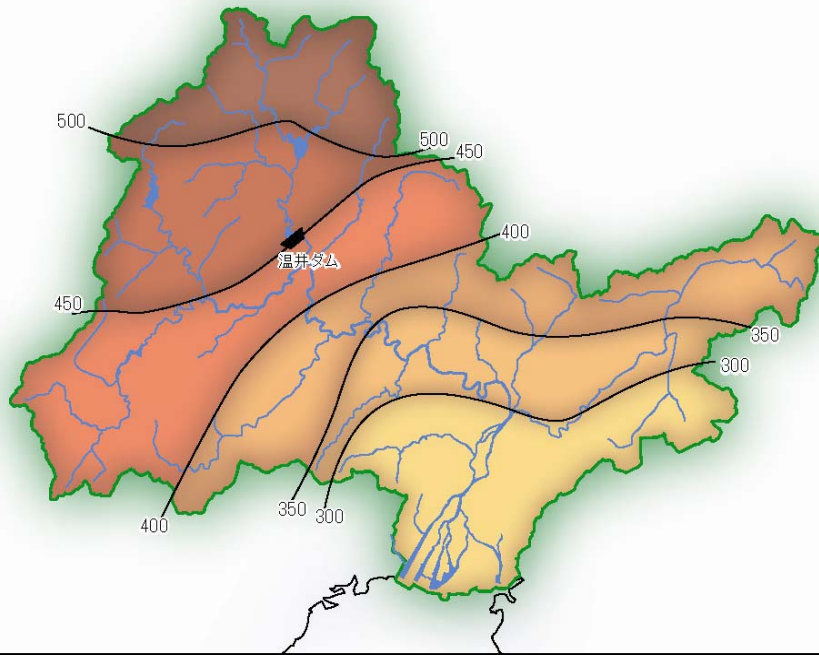
3.7 平成17年9月洪水浸水被害状況(2)



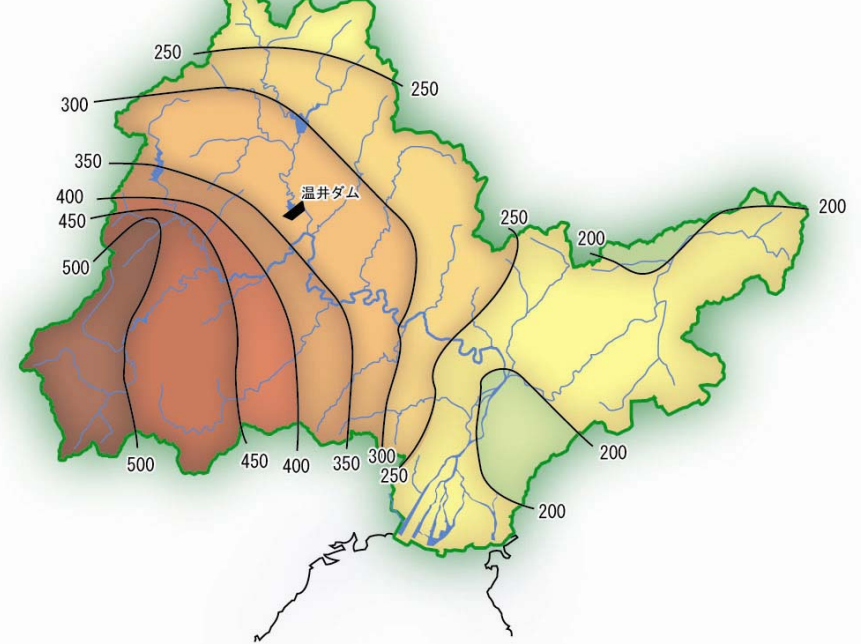
3.8 総雨量の比較

- 昭和47年7月洪水では、滝山川流域で大量の降雨
- 平成17年9月洪水では、太田川本川上流域で多量の降雨
- いずれの洪水も観測史上最大流量(当時)を観測したが、異なる降雨分布

昭和47年7月洪水での等雨量線図



平成17年9月洪水での等雨量線図

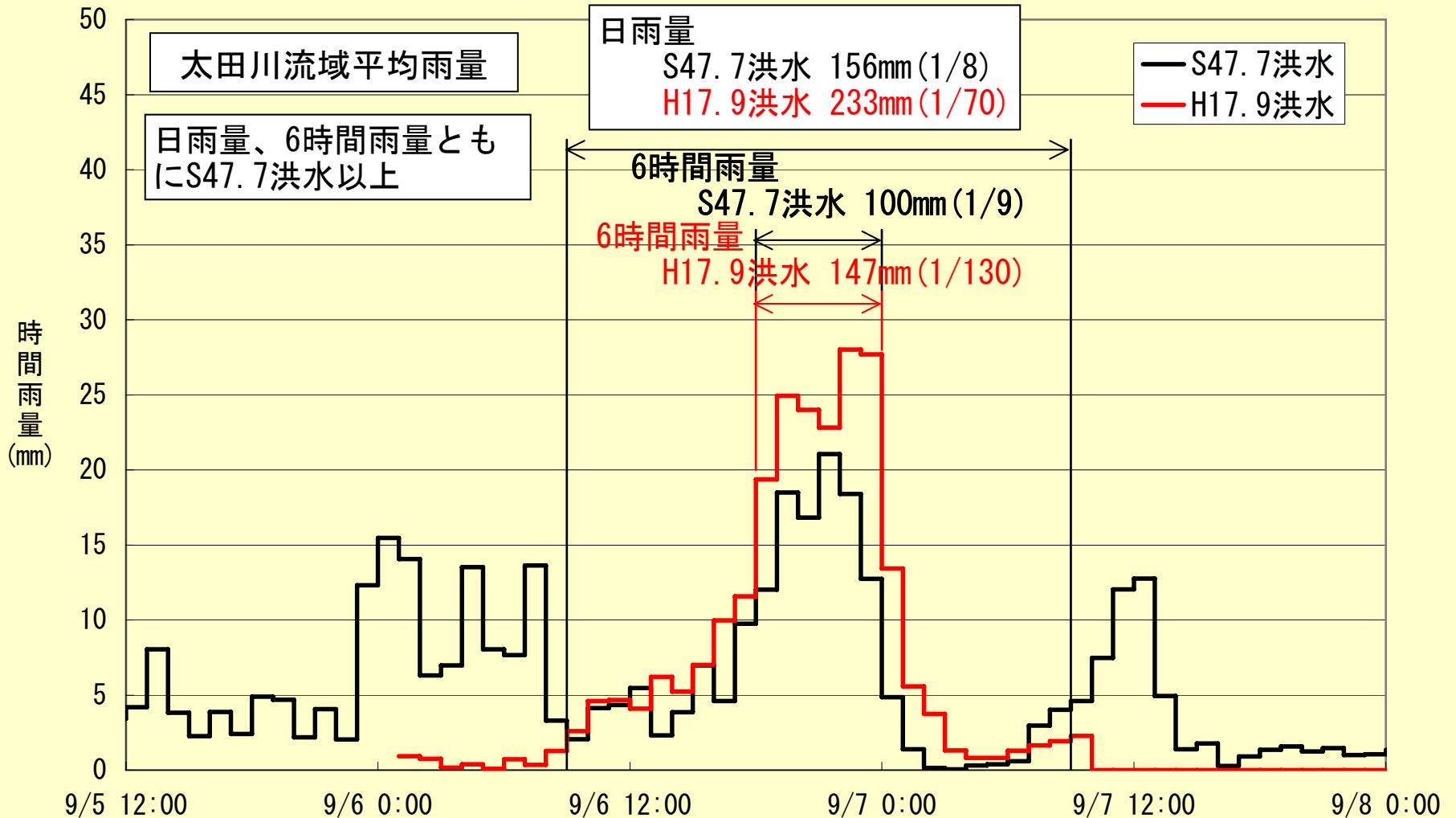


3.9 流域平均雨量の比較

■流域平均雨量を確率評価(平成17年9月洪水)

⇒日雨量233mm: 降雨確率1/70、6時間雨量147mm: 降雨確率1/130

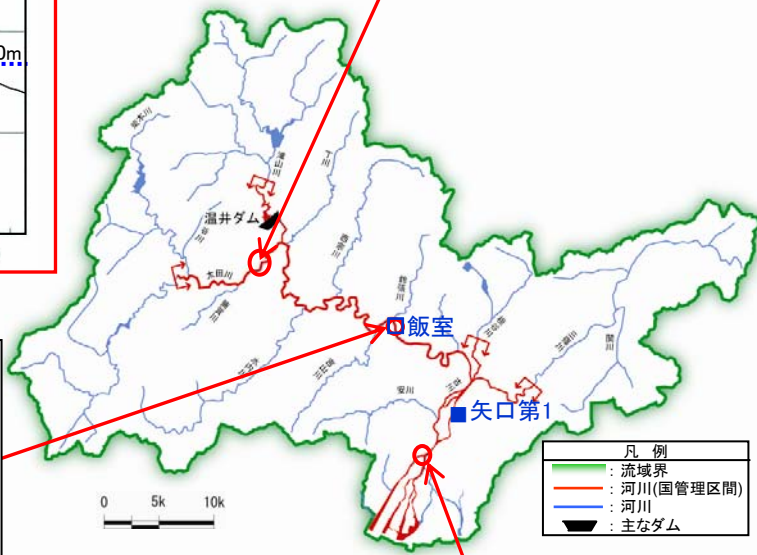
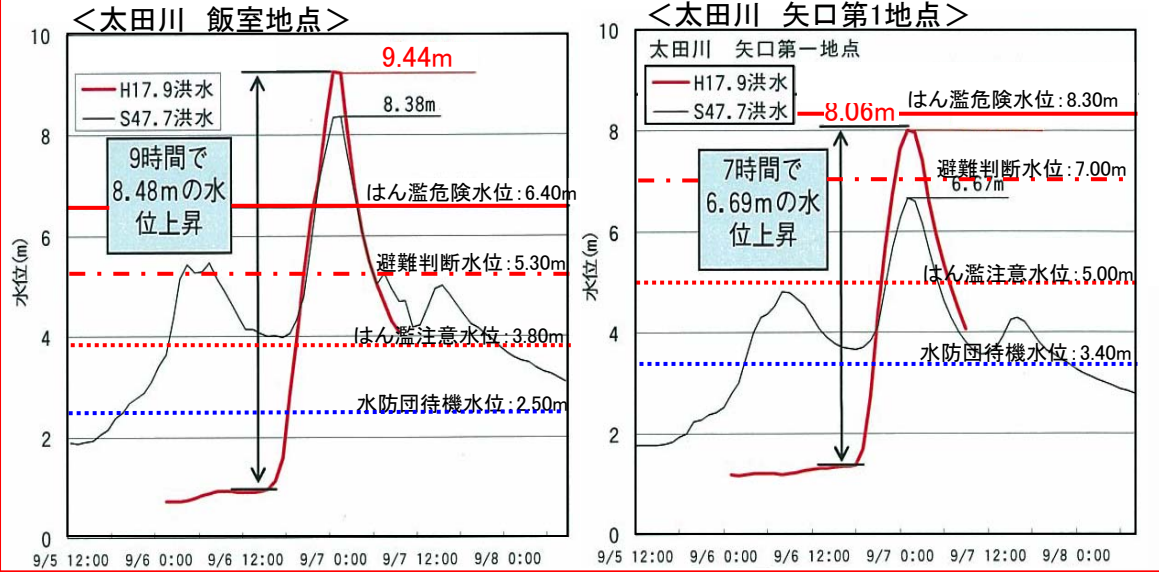
■昭和47年7月洪水より集中的な豪雨であった



3.10 水位の比較

- 平成17年9月、太田川では昭和47年7月洪水（これまでの戦後最大流量）を上回る 7,200m³/sの洪水発生
- 短時間集中型の降雨(既往最大日雨量)により、急激に水位が上昇(既往最高水位更新)

水位の状況



<氾濫危険度レベルに応じた水位とその定義>

水位 ↑ 高い ↓ 低い

- 【はん濫危険水位(危険水位)】**
洪水により家屋浸水等の被害の生じる、はん濫の恐れがある水位
- 【避難判断水位(特別警戒水位)】**
水害の発生に備えて、市町村長の避難勧告等の発令の目安となる水位
- 【はん濫注意水位(警戒水位)】**
水害の発生に備えて、水防団が出動する目安になる水位
- 【水防団待機水位(指定(通報)水位)】**
水防団が待機し、水防活動に入る準備を行うための水位
注):()内の呼称は、防災用語見直し前の呼称

